

兵庫県におけるシルビアシジミの吸蜜植物—第3報

島崎 正美¹⁾・島崎 能子²⁾

兵庫県におけるシルビアシジミ *Zizina emelina* (環境省のレッドリストで絶滅危惧 I B 類選定: 以下, 本種) の吸蜜植物に関して, 「兵庫県の蝶」(2007) に記載されている, ミヤコグサ, シロツメクサ, ヒメジョオン, ニガナ, キツネノマゴ, カタバミの6種に加えて, 筆者らは新たに観察記録したアメリカセンダングサ, アリアケスミレ, オオイヌノフグリ, オオニシキソウ, カンサイタンポポ, コメツブウマゴヤシ, ツリガネニンジン, ヒナギキョウ, ヒメハギ, ヨメナの10種について報告をしている(2015, 2016). すべて加古川市の生息地2か所での観察例であるが, 一般的に本種が訪花する場面に出会える機会は少ない.

筆者らは, 1959年9月に観察記録されて以降59年間発生が見られなかった高砂市で, 2018年4月に新たな本種の生息地を発見して報告(2018)しているが, 今回, 2019年7月にその場所で新たな吸蜜植物: イヌ

コモチナデシコを観察記録でき, さらに2019年9-10月にヌスビトハギとブタナのしおれた花穂(撮影記録はなし)での吸蜜を観察できたので報告する.

2019年7月21日, 高砂市曾根町: 一日中薄曇りという天候のもと, シロツメクサで求蜜する個体があちこちでみられ(図1), ミヤコグサの黄色い花で夢中になって蜜を吸う個体も複数みられるという, 加古川市の生息地では経験したことがない訪花シーンが展開していた(図2). シロツメクサの花から花へと転飛している個体に的をしばってついて回ると, 除草作業が行われてまもない草地に萌芽してきたヒメジョオンの小さな花でしばらく吸蜜(図3)した後, すぐそばに咲くイヌコモチナデシコにも立ち寄って口吻を伸ばす場面の観察記録がとれた(図4).

2019年9月17日, 加古川市: 志方町の生息地で, 強い北風と西風に吹き飛ばされそうになりながら, 草原



図1 シロツメクサで吸蜜.



図2 ミヤコグサで吸蜜.



図3 ヒメジョオンで吸蜜.



図4 イヌコモチナデシコで吸蜜.

¹⁾ Masami SHIMAZAKI ; ²⁾ Yoshiko SHIMAZAKI 兵庫県高砂市



図5 ヌスビトハギで吸蜜.



図6 ヌスビトハギで吸蜜.



図7 ヒナギキョウで吸蜜.

参考文献

- 広畑政巳, 近藤伸一, 2007. 兵庫県の蝶. 330pp, p.171, 岩峯社, 東京
- 島崎正美, 2015, 兵庫県におけるシルビアシジミの吸蜜植物. きべりはむし, 38(1): 4-5
- 島崎正美, 2016, 兵庫県におけるシルビアシジミの吸蜜植物—続報—. きべりはむし, 39(1): 17-18
- 島崎正美, 島崎能子, 兵庫県高砂市でシルビアシジミの新産地を発見. 2018, 月刊むし, (573): 57

の低い位置を飛んでいたオスが, ミヤコグサやヒナギキョウの花が少ない中, 目立って咲いていたヌスビトハギの花で吸蜜しはじめたのに気づき, 急ぎビデオ撮影をしたがフォーカス合わせが間に合わないうちに飛ばれてしまい, 証拠記録程度の画像記録しか残せなかった. 次いで, ブタナの咲き終わってしぼんだ状態の黄色い花穂に蜜を求めるオスも観察したが, その撮影記録はとれなかった.

2019年10月1日, 加古川市: ヌスビトハギでの吸蜜シーンの確実な撮影記録をとる目的で訪れた志方町の生息地では, 野焼き後に回復した草地周りで飛び交う複数の雌雄個体が観察でき, ミヤコグサで吸蜜した後ヌスビトハギの花へと向かうオスの飛翔についていくと, 期待通りに吸蜜し始め, 珍しく1分以上の長い時間, 同じ花で吸蜜を続け, 口吻を伸ばして吸蜜する映像の記録がとれた(図5, 6). なお, ヒナギキョウでの吸蜜シーンの記録は2016年の続報で報告済みだが, メスが花びらの裏側から口吻を伸ばす様子の撮影記録もとれたので示しておく(図7).

今回の新たな3種: イヌコモチナデシコ, ヌスビトハギ, ブタナの追加で, 加古川市と高砂市で確認できた本種の吸蜜植物は合計19種となる.

本報告に際し, 吸蜜植物の同定に関して, 情報を提供して下さった関澤友規子氏(イヌコモチナデシコ)と日本チョウ類保全協会理事の永幡嘉之氏(開花前のヒメジョオン)に感謝いたします.